

## 受 賞 者 紹 介

<担 い 手 育 成 部 門>

下山高原生花生生産組合

<技 術 改 善 部 門>

渡 辺 義 道

<農業・農村振興部門>

石 川 政 子

前 田 恒 夫

## 担い手育成部門



豊田市

下山高原生花生生産組合

下山高原生花生生産組合は、豊田市下山地区で小ギクを生産する組織である。この組合は、昭和57年に生活改善実行グループの4名がキク栽培に取り組んだところから始まった。発足から20年が経過し、担い手の確保、育成に力を注がれ、さらなる発展を続けている。平成19年度の組合員は36戸、生産額は1億2,870万円で、生産される小ギクは地域の特産物として欠かせないものとなっている。

組合活動の主な取り組みとして、巡回指導会がほぼ毎月行われている。また、研修会等を通じて生産技術の向上が図られ、組合員間の交流も盛んな他、消費者ニーズに対応した販売活動により市場の評価も高くなっている。

担い手育成については、高齢化の進む中山間地域の活性化の模範となるような体制がとられ、成果を挙げている。平成15年度には新規栽培者の受け入れ体制を整備し、20年度までに13名の新規栽培者が加入した。加入後は担い手としての定着のため、現地指導に重点を置いた「ビギナーズセミナー」のほか、日常の先輩生産者の協力体制の充実などが図られている。

更に新たな取り組みとして18年度からは豊田市農ライフ創生センターと連携し、地域外住民の新規就農および組合加入を実現している。就農に際しては、必要に応じて組合長のもとで長期研修を実施し、さらにセンターと連携して農地の取得を支援している。農外や地域外からの担い手の受け入れには、ほ場の提供からバックアップしていくというのが組合の方針でもある。

このように、担い手の育成を目標に掲げ、リーダーシップを發揮している組合長のもと組合員が協力し、さらに農協始め関係機関との連携により産地の発展につなげていることが評価された。

## 技術改善部門



豊橋市

わた なべ よし みち  
渡 辺 義 道

渡辺義道氏は豊橋市牛川町でブドウを栽培する農家で、卓越したブドウ栽培技術を有するだけでなく、豊橋地域の「種なし巨峰」の大粒化技術を確立するとともに、その技術を地域全体に普及し、日本を代表する産地にするべく尽力された。さらには愛知県果樹振興会の役員を長く務められ、愛知県全体の果樹の振興にも大きく貢献されている。

具体的な成果としては第1に高品質な「種なし巨峰」の生産技術を確立したことである。その方法は開花前の花穂の制限と、2回目の植物成長調整剤処理前に一房30粒以内に摘粒を行う栽培技術で、従来の「種あり巨峰」より劣るとされていた果粒肥大の問題を解決する等の技術を確立し、豊橋地域の「種なし巨峰」生産の先導的役割を果たした。

近隣5農協の合併時には生産者協議会長を務め、地域ごとにはらつきのあった技術の統一を図るとともに、農業総合試験場で育成したウイルスフリー苗の母樹園を運営し、地域へ供給するなどリーダーとして高品質生産技術を普及した。また、現在、有望新品種「シャインマスカット」の種なし栽培技術を農業総合試験場、地元農業改良普及課と協力し、技術開発を行っている。平成3年から農協の部会長及び愛知県果樹振興会の役員を務め、特に15年から18年まではぶどう部会長として愛知県全体のブドウ生産の振興に大きな貢献をしている。

一方、平成16年から毎年地域の小学生（3年生）100名前後をほ場に招き、花摘み、摘粒、袋かけや収穫体験など食農教育も実践している。

このように氏は卓越した技術と献身的な人柄により、地域農業の発展に貢献しており、評価される。

## 農業・農村振興部門



安城市

いし かわ まさ こ  
石 川 政 子

石川政子氏が経営に参画している石川植物園は「明るく楽しい農業」「やりがい、生き甲斐、働きがい」を信条として、安城市福釜町で花苗を生産する県内でも屈指の優良な経営を展開している。

氏は女性の感性を活かした活動や次代を担う女性農業者の育成、消費者を含めた住みよい農村作りに精力的に取り組んでいる。

その主な活動は、農村生活アドバイザーとして家族経営協定の推進、地産地消の取り組みや住民交流活動に活躍してこられた。また、安城市初の女性農業委員として農政推進の判断基準の充実、食農教育などの活動を展開し、農村振興、地域の活性化に多大な貢献をしている。この功績が認められ、女性では県下で初めて市農業委員会の農業振興部会会長に就任されている。さらに、愛知県農業会議常任会議員として、女性の視点で農業振興に尽力している。

家族経営協定の推進に関しては、劇団「おとめ座」を結成し、脚本や演技指導など中心的な役割を果たした。女性、後継者の視点からみた協定のメリットを分かりやすく伝える寸劇は、県内外にて20回公演し、県下941戸の締結に寄与した。

食農教育の例としては、親子ふれあい農業体験や紙芝居の制作上演、寄せ植え講座などを挙げることができる。また、月に一度「まちなか産直市」を開催し、消費者に直接農産物を販売し、地産地消の推進にも努めている。

地域への貢献は、住民交流活動の実践や遊休地対策としてジャンボカボチャコンクールを開催したり、花壇作りや郷土料理作りを通じ住民の交流が図られ、農業の良さが理解され、地域づくりの優良事例となっている。

このように、男女とも働きやすい農業、暮らしやすい農村づくりに与えた氏の功績は大きく今後の活躍も期待される。

## 農業・農村振興部門



弥富市

まえ だ つね お  
前 田 恒 夫

さめがんじ

前田恒夫氏は弥富市鮫ヶ地に在住し、旧十四山村農協職員として地域の農業発展に寄与され、退職後は地域農業の先駆的な活動をされている。

農協職員当時に氏が中心になって、旧十四山村に全農家が構成員となる4つの集落営農組織を設立させた。各営農組合は米麦の安定生産、品質向上、コスト削減、有利販売を行うことで、担い手確保や優良農地の保全につながるという仕組みを成立させ、地域農業の発展に大きく貢献された。

その後も、地元集落において、水稻・小麦・大豆の収入と経費について、一集落一農家と考えるプール計算方式の導入と、水稻直播栽培の普及定着に努められた。プール計算方式の運営も氏の力におうところが大きい。

氏が設立、運営に尽力してきた「集落営農方式」及び「一集落一農家」方式は各方面で紹介されるだけでなく、視察者も絶えず周辺地域や全国のモデルとなっている。

一方、農協退職後には地元住民のつながりを復活させるため「コスモス会」を立ち上げ、休耕地へのコスモスの植栽、黒大豆の収穫体験の実施、畦畔への地被植物の植栽、水路の清掃等を行い、地域に大いに貢献している。氏はこの会の企画から運営までも尽力しており、今も会員が増加している。

さらに、地域の高齢者を中心にして、「プチヴェール」栽培グループを組織し、資材の供給、販売、会計業務等を担い、活動している。また、平成19年度から始まった農地・水・環境保全向上対策の当地域の推進組織の会長にも就任されている。

このように、氏は農協職員の時代から一貫して地域農業の発展に大きく貢献しており、その活躍は各方面から評価されている。

## 審　　査　　講　　評

あいちアグリアウォード審査委員会

委員長 竹 谷 裕 之

第3回目の本年度は、個人4、団体3の7点が各方面から推薦を受けられ、去る9月26日に愛知県農林会館において慎重に審査をいたしました。その結果と内容をご報告して審査講評にかえさせていただきます。

推薦応募の内訳は、担い手育成部門2点、技術改善部門2点、農業・農村振興部門3点で、それぞれが本県の農業及び農村振興に多大な貢献をされ、審査には大変苦労をいたしました。

審査要領に従って、慎重かつ公平に審議し、審査委員全員の合議をもって、担い手育成部門に下山高原生花生産組合、技術改善部門に渡辺義道さん、農業・農村振興部門に石川政子さんと前田恒夫さんを選びました。

担い手育成部門では団体と個人の各1点が推薦されました。団体は担い手の育成に力を注ぎ産地の発展を遂げている組合で、個人は伝統技術の伝授に貢献された方と内容も業績も異なるものがありました。

今回、受賞されます下山高原生花生産組合は、豊田市下山地区で小ギクを生産する集団で、担い手の確保、育成に力を注がれ、さらなる発展を続けています。現在では、組合員36戸、小ギクの生産額1億2,870万円で、生産される小ギクは地域の特産物として欠かせないものとなっています。

同組合は地域の気候に適した作物選択と旺盛な班活動等を通じた技術力の高い生産活動を進め、あわせて消費者ニーズに応える共選共販活動を推進することにより、全国的に見ても優れた小ギク産地を作り上げています。さらに注目されるのは、担い手育成について高齢化の進む中山間地域の活性化の模範となるような体制がとられ、成果を挙げていることです。平成15年度から新規栽培者の受け入れ体制の整備を行い、20年度までに13名が加入しています。さらに新たな取り組みとして、豊田市農ライフ創生センターと連携し、農外や地域外からの担い手の受け入れにも積極的であります。

産地の維持発展のため、担い手を自らの組織で育成している組合の活動は他の模範となり、大変すばらしいとの評価ありました。

技術改善部門では、団体と個人の各1点が推薦されました。団体は稲作の基本となる採種を行う農協の部会で、個人は果樹の新技術の確立及びその技術の普及に貢献された方でした。

今回、受賞されます渡辺義道さんは豊橋市牛川町でブドウを栽培されている農家で、卓越したブドウ栽培技術を有するだけでなく、「種なし巨峰」の大粒化技術を確立されました。その方法は開花前の花穂の制限と2回目の植物成長調整剤処理前に一房30粒以内に摘粒を行う栽培技術で、従来の「種あり巨峰」に比べ困難とされていた果粒肥大の問題を解決するものであります。これにより、豊橋地域の「種なし巨峰」生産の先導的役割を果たしました。渡辺さんは普及指導員と連携し、3年間にわたり開発技術の講習会を開催し、技術の統一に尽力し、さらにウイルスフリー苗を地域へ供給するなど高品質生産技術の普及にも尽力されました。また、愛知県果樹振興会の役員を長く務められましたが、現在では有望な新品種の種なし栽培技術を農業総合試験場、地元農業改良普及課と協力し、技術開発を行っています。これらの技術を通じて、豊橋地域が日本を代表する産地となりました。このように高い生産技術と献身的な人柄により、地域農業の発展に貢献していることを高く評価しました。

次に、農業・農村振興部門でございますが、団体1点と個人2点が推薦されました。団体は優れた技術や流通の取り組みがされている集団で、個人は女性農業者の視点から積極的に活動されている方と集落営農組織を育成された方のお二人であります。いずれも知名度も高く、審査は難航しました。個人のお二人は、ともに農業・農村振興への貢献は多大であり、非常に高い評価がされ、協議を重ねた結果、2名とも表彰候補者に値するとの意見が続出しました。今回は審査委員全員の一致で2名を受賞者としました。

今回受賞されます石川政子さんが経営に参加しています石川植物園は、「明るく楽しい農業」「やりがい、生き甲斐、働きがい」を信条として、安城市で優良な経営を展開しています。石川さんは次代を担う女性農業者の育成、消費者を含めた住みよい農村づくりに精力的に取り組んでおられます。主な活動は農村生活アドバイザーとして家族経営協定の推進、「まちなか産直市」など地産地消の取り組みや住民交流活動に活躍してこられました。また、安城市初の女性農業委員として農政推進の判断基準の充実、食農教育などの活動を展開し、農村振興、地域の活性化に多大な貢献をしておられます。この功績が認められ、女性では県下で初めて市農業委員会の農業振興部会会長に就任されています。また、愛知県農業会議常任会議員として、女性の視点で農業振興に尽力しておられます。男女ともが働きやすい農業、暮らしやすい農村づくりに与えた石川さんの功績は大きく、今後の活躍も期待されることなどを高く評価しました。

もうひとかた受賞されます前田恒夫さんは弥富市鮫ヶ地に在住し、旧十四山村農協職員として地域の農業発展に寄与され、退職後も地域農業の先駆的な活躍をされています。

農協職員当時には、全農家が構成員となる4つの集落営農組織を設立させ、十四山農業の発展に大きく貢献されました。その後も、地元集落において、水稻・小麦・大豆の収入と経費について、一集落一農家と考えるプール計算の導入と、水稻直播栽培の普及定着に努められ、地域のコメの品質向上、コスト削減、高付加価値米による有利販売を実現しました。この「集落営農」及び「一集落一農家」方式は「十四山モデル」として各方面で紹介され、周辺地域や全国へ波及しています。

一方、農協退職後には地元住民のつながりを復活させるため「コスモス会」の立ち上げや地域の高齢者を中心にして、「プチヴェール」栽培グループを組織しました。また、農地・水・環境保全向上対策の当地域の推進組織の会長として活躍しておられます。このように、前田さんは農協職員の時代から一貫して地域農業の発展に大きく貢献していることを高く評価しました。

いずれにいたしましても、今回推薦のありました7点の個人、団体全てが、あいちアグリアウォードに相応しい内容でございました。これから多くの方々の推薦を期待いたしまして審査講評といたします。